

各事業会社の環境配慮



低温物流事業

物流センターでの環境配慮に加え、効率的な物流サービスの提供などを通じて、社会全体の環境負荷削減に貢献していきます。

保管時の環境配慮

6事業所でごみゼロを達成

各事業会社での分別徹底などの取り組みの結果、2004年度は6つの事業所においてごみゼロを達成しました。

また、廃棄物削減・再資源化の活動におけるモデル事業所を、地域会社ごとに一事業所選定し、設備改善などを優先して行いました。モデル事業所の取り組み成果は、社内のイントラネット上で掲示され、全事業所間で共有されており、今後取り組みを本格化する事業所にとって有用な情報として活用されています。

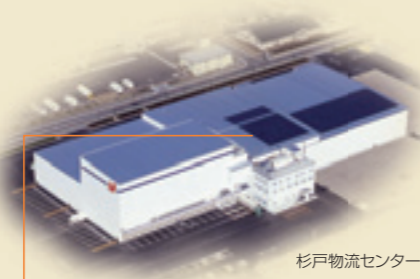
物流時の環境配慮

協力運送会社と連携したCO₂排出削減

ニチレイロジグループは、事業活動により発生するあらゆる環境負荷の削減をめざすうえで、事業所のみならず、輸配送業務から発生するCO₂排出量を把握し、その削減に向けた取り組みを行うことが重要と考えています。

そこで2005年3月、協力運送会社63社を対象に、ニチレイロジグループの方針を伝達する意見交換会を実施し、物流サービスの提供を通じて、CO₂排出削減に貢献していくことを確認しました。

さまざまな環境配慮を施した「杉戸物流センター」の新設



杉戸物流センター

太陽光発電システム(200kw)の採用

地球温暖化の原因となる二酸化炭素や排気ガスをださず、太陽光がある限り電気を生み出す太陽光発電システムを採用しています。(NEDO(新エネルギー・産業技術開発機構)との共同フィールドテスト事業)

建物の屋根の南傾斜部に太陽電池パネルを設置し、年間約20万kwh程度の発電を行います。これは、一般家庭の50世帯分の電力使用量に相当し、杉戸物流センターの使用電力量全体の約5%に相当します。

最新型冷却システムの導入

-25℃の冷蔵庫の冷却システムに環境への影響の小さい自然冷媒を採用した最新技術を取り入れています。

一次冷媒としてアンモニア(NH₃)、二次冷媒として二酸化炭素(CO₂)の2種類の自然冷媒を組み合わせた最新型冷却システムです。アンモニアは、オゾン破壊係数ゼロ・地球温暖化係数

1以下であるうえ、従来使用されているフロンよりも冷却効率が良い冷媒のため、省エネルギーになります。

水や熱の再利用

冷凍機の廃熱を冷却装置のデフロスト(霜取り)水の加温に利用し、電気ヒーターの電力削減を行っています。さらに、使用後のデフロスト水も、大型水槽に回収し再利用しています。

その他のエコ対策

- 冷却設備を効率よく運転するための制御コンピュータを導入
- 受電設備で使っているトランスに超高効率タイプを採用
- 全照明器具に効率の良いインバーター照明器具を採用
- センサー付き照明器具で窓からの自然採光を無駄なく使用
- 水が不要の新しいトイレを採用

以上のエコ対策による効果は、年間410トンの二酸化炭素削減となります。これは、森林の二酸化炭素吸収能力で換算すると410,000m²となり、東京ドーム約9個分の森林となります。(東京電力の2003年度CO₂排出原単位をもとに算出)



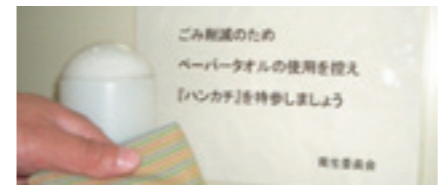
バイオサイエンス事業

廃棄物の発生抑制と、分別徹底によるリサイクル推進に注力し、再資源化率が向上しました。

廃棄物の発生抑制

紙ごみの削減のため、手洗い時にペーパータオルを使用せず、タオルやハンカチを使用するよう、社内講習会にて啓蒙するとともに、手洗い場所に貼り紙を行い、ハンカチ使用を促しています。

また、購入品に含まれる梱包資材のうち、再利用可能なものを選別して、社内便の梱包に利用しています。



ハンカチ使用の貼り紙

リサイクルの委託推進

従来、最終処分廃棄物としていた金属缶(ドラム缶)、動植物性残さ、廃プラスチックなどの5種類について、2004年度内に新たにリサイクル業者への委託に変更しました。これにより、17種類のうち12種類がリサイクルできるようになりました。

また、分別の種類を、3種類増やし、分別の種類や方法について2回にわたって社内講習会で説明を行い、さらなる分別の徹底を図りました。

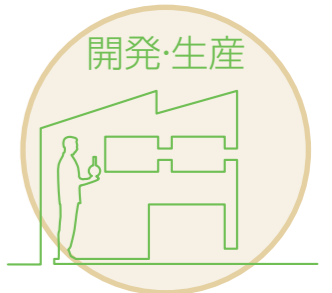


分別置き場

環境にやさしい印刷方法の採用

2004年度に新規作成した8種類の新製品案内などの印刷物のうち5種類について、古紙100%の再生紙の使用および大豆インクによる印刷を実施しました。

このインクは大豆油で作られているため紙とインクを分離しやすく、紙の再生が容易になります。



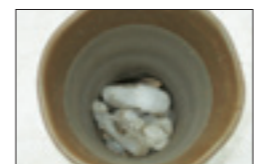
フラワー事業

廃棄物の循環利用や、使用資材の環境配慮などに取り組んでいます。

生分解性素材の活用検討

商品の配送や栽培に使用する資材に、自然環境のなかで分解しやすい生分解性素材の積極的活用を進めています。

2004年度は、お客様にお届けする鉢の底に入れるプラスチックに、生分解性素材を試験的に導入し検討を進めましたが、従来のものより強度が弱かったため、2004年度9月より使用を中止し、現在新しい素材の検討を行っています。



鉢底に入れる素材

廃棄物の循環利用

電力会社と協力して廃棄物の循環利用を進めています。

2003年度より、電力会社のダム(水力発電)から発生する堆積土砂を洋ラン栽培用に再利用するための各種試験を実施してきました。これに加え2004年度10月より、間伐材や火力発電所から出る石炭の燃えがらを再利用する試験も開始しました。



残さの再利用

